

事務事業マネジメントシート(平成25年度実績と平成26年度計画)

平成26年 5月23日 更新

事務事業名		里道等整備助成事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	1	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり			所属部	事業部	課長名	水野 孝春
	施策	5	道路ネットワークの充実			所属課	建設課	担当者名	二瀬 義継
	基本事業	13	計画的な道路の整備			所属班	管理計画班	(内線)	2252
予算科目		会計一般	款8	項2	目3	事業連番10057	法令根拠	合志市里道等整備補助金交付規則 成果優先度評価結果：① コスト削減優先度評価結果：⑥	
終了、開始年度		☐ 25年度で終了 ☐ 25年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	一般の交通に供する市道以外の道路について補助金の交付を以って住民の生活環境の改善を図る。合併前の旧西合志町で、昭和55年度から町道以外の整備は行なっておらず、里道・町有地・私道の整備要望が多く、住民の住環境を整えるために補助金交付制度を導入し、合併後も継続事業として引き継いでいる。住民の一部負担により効率化が図られている。年々申請件数が増加し、以前に整備された道路も20年を経過する箇所も存在し、補修が必要な箇所も発生しているが、補助金の再申請が適用できないことから、制度の見直しを検討する時期に来ているので補助採択の制限を補助採択後10年間は、原則として同一箇所及び同一工種の補助採択は行わない。に規則の変更をしました。更に、平成24年度事業仕分けにより、私道整備に補助金を交付するのはおかしいとの指摘があり、平成25年度より私道整備については、寄付行為があり1年を経過した道に限るとし事業名称も里道等整備助成事業としました。
【業務の流れ】	(対象確認申請)→交付対象確認→(交付申請)→交付額の決定→(工事)→確認検査→交付額の通知→(請求)→支払い→領収書の添付
【主な予算費目】	法定外道路及び公有地＝9/10 で2,500千円を限度額とする。
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	市道管理として整備できない箇所を補助金制度の活用により整備が行える。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
①手段(主な活動)25年度実績(25年度に行った主な活動)(DO)		26年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
予算額内での繰り越し件数の執行と新たな申請件数の効率化		予算額内での繰り越し件数の執行と新たな申請件数	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ア:対象となった件数	件		
→イ:			
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	
沿道住民が行なう、法定外道路・公有地等の整備		→ア:箇所数	箇所
→イ:		→イ:	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	
砂利道の舗装・排水路の整備により粉塵・雨水被害の解消		→ア:実施件数/申請件数×100	%
→イ:		→イ:	
*③成果指標設定の理由と26年度目標値設定の根拠 地元施行に対し工事費の9割を助成する制度であり、地元からの申請件数に対処する。			総トータルコスト 全体計画 ～ 年度 0

(2)各指標・総事業費の推移										
		単位	23年度 実績(決算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	25年度 実績(決算)	26年度 目標(当初予算)	27年度 予定	28年度 見込	29年度 見込
① 活動指標		ア イ	件 9	7	5	8	5	5	0	0
② 対象指標		ア イ	箇所 9	7	5	8	5	5	0	0
③ 成果指標		ア イ	% 100	100	100	100	100	100	0	0
投資 入費 量	事業 費 内 訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	12,334	7,431	7,200	7,196	7,200	7,200	7,200
	(A) 事業費計	千円	12,334	7,431	7,200	7,196	7,200	7,200	7,200	7,200
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	2	0	5	4	5	5	5
		延べ業務時間	時間	505	0	330	615	330	330	330
		(B)人件費計	千円	2,039	0	1,343	2,450	1,343	1,343	1,343
トータルコスト(A)+(B)		千円	14,373	7,431	8,543	9,646	8,543	8,543	8,543	

事務事業名	里道等整備助成事業	所属部	事業部	所属課	建設課
-------	-----------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部（SEE）

*原則は25年度的事後評価、ただし複数年度事業は25年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①25年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	
	②26年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】
	事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	23年度で申請のあった内、予算の範囲で施工できなかったものが24年度へ繰越しするため、既に4件の申請が出されている。予算額の執行については、調整して適正な執行に努める。
有効性評価	③成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】
	次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	申請者の工事見積りについては、標準単価により精査し、適正額よりも低く交付額を決定しており、向上余地が無い。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】
	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似した事業が無い。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	申請者に対する交付額（交付率）の引下げによる交付件数の拡大
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	申請受付から精査設計書の作成、支払いまで考えると削減余地は無い。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	公平性を欠かさぬよう受益者の一部負担により執行している。
	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】
	事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	地元施工について、一部を補助する制度なので、適正である。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

整備されていないが、生活道路として利用している道路が現在も沢山ある。地元の地権者にとっては良い制度であるが、後々に境界もめや負担のことで問題になるケースも少なくない。今後は、原材料支給の方向で考えることもできるが、地元地権者の要望や意見を尊重し、慎重に検討が必要である。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可		(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要）																						
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善） ☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善） ☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																								